

くらしの賑わいを取りもどす 大分県杵築市城下町地区まちづくり協議会／  
持続可能な商店街を育てるために（都市計画サロン）のご報告

## 1. くらしの賑わいを取りもどす 大分県杵築市城下町地区まちづくり協議会

大分県杵築市城下町地区は、杵築市（人口約3万1千人）の中心に位置し、杵築藩の時代から藩校や武家屋敷、商家が建ち並ぶ城下町の中心として栄えた地区です。また、河岸段丘の地形を利用し、南北の台地上には武家屋敷が、両台地に挟まれた東西にのびる谷筋には、郊外の農産物が売買される商人町として栄えた商店街が広がっています。さらにこの谷筋と、両台地を結ぶ「坂」が数多くあり、坂道の城下町として特徴的な景観をみせています（画像1）。一方で、商家が集積する谷筋では、多くの城下町でみられる地権者の高齢化や廃業等による空家にとどまらず、道路拡幅事業による引家や、移転等の影響で、空地が目立つようになり、町並みの連続性やくらしの賑わいが失われつつあります。そのようななか、城下町地区まちづくり協議会と大分大学が協働し、3年ほど前から勉強会や調査、住民間の話し合いを重ねてきました。特に平成26年度は、歴史的風致維持向上推進等調査事業を活用して、空家・空地の増加傾向を緩やかにするための取組みの検討や、できてしまった空地を利用して、くらしの賑わいを取りもどすための利活用実験を実施しています（画像2）。また、実験で実施する設備の設計や製作、その管理運営のあり方、全てを地元技術者と住民、学生が連携し、ワークショップ形式で検討・実現しています（画像3）。

今後は、取組みの継続性を図るため、実験の結果を参照しながら、空地・空家の利用方向性を見出し、運営資金の調達方法・運営体制の構築をめざして、活動を継続する予定です。

（文責：幹事 姫野由香(大分大学)）



## 2. 持続可能な商店街を育てるために～日南市中心市街地活性化を契機とした油津商店街の取組み～（都市計画サロン）のご報告

日時：平成26年12月19日（金）

演題：「持続可能な商店街を育てるために～日南市中心市街地活性化を契機とした油津商店街の取組み～」

講師：木藤 亮太氏（テナントミックスサポートマネージャー

（日南市・油津商店街）、株式会社油津応援団 取締役）

宮崎県日南市で全国公募により選ばれたテナントミックスサポートマネージャーの木藤氏にご講演いただきました。空き店舗率26%、未利用が6～7割の油津商店街において、「4年間でテナント20店舗誘致」という条件のもと、2013年から木藤氏が取り組んできた油津商店街での取組みのプロセスを中心に、ご紹介いただきました。シャッターを開けるには、根本を変える必要があるとの考えから、コミュニケーションを重視し、着任後1年間は、テナント誘致や経済効果ではなく、市民参加型・ストーリー重視型で、商店街再生の下地作りを進めてきました。こうした期間を経て、最近では空地を暫定利用した農園開設や、多くの人にとって思い出深い喫茶店を日南にはないカフェスタイルで復活させた「ABURATSU COFFEE」の開店など、リーシングやハード整備が進められています。継続的に油津のまちづくりを支えていく「株式会社油津応援団」も設立するなど、自身の任期後も自走できる商店街を目指した仕組みづくりも同時に進めています。今後は複合ビルや多世代モールといったハコモノ整備が行われますが、商店街で培ったノウハウをこうした施設にも応用できるはずであると木藤氏は述べます。テナント誘致にあたっては商店街のコンセプトや業態を絞らず、末永く強い商売が出来る店であることを重視しているとのこと。シャッター街の再生に向けた油津商店街での取組みは、多くの地方の商店街再生の手がかりを示してくれることと期待されます。

（文責：幹事 永村景子(九州大学)）

